

- **所 属** 米国海軍 軍事海上輸送司令部
  
- **艦 歴** 1976年に就航したサン・クレメンテ級石油タンカーを改造。1986年海軍所属  
 ※米国はマーシーと同型の病院船コンフォート（1987年就役）と2隻体制で運用
  
- **性 能 諸 元** 全長：272.6m 全幅：32.2m 排水トン数：69,360トン マスト高：40.5m  
 喫水：10.37m（必要岸壁水深約11m） 速度：12ノット（巡航速度）
  
- **乗 組 員** 【平常管理体制】 MSC委託乗組員12名、海軍医療軍人59名  
 【任 務 体 制】 MSC委託乗組員67名、海軍医療軍人1,215名  
 ※MSC：Military Sealift Command
  
- **医 療 機 能** 【病 床】 ICU：80床 術後の回復病床：20床  
 中間治療病床：400床 軽傷治療病床：500床  
 【手 術 室】 12室  
 【医 療 器 材】 透析器：2台 人工呼吸器（固定型：40台、可搬式：47台）  
 CTスキャンユニット…1台 血管造影装置
  
- **付 帯 装 備** 【ヘリコプター】 使用ヘリはSH60タイプ、最大輸送人員は8名  
 同時発着能力は1機、着陸間隔は約5分  
 患者空輸時、飛行甲板から患者受入れステーションまでの  
 所要時間は50秒  
 【小型作業艇】 小型作業艇2隻及びポンツーンを搭載可能
  
- **維持管理経費** 年間980～1500万ドル（約10.8～16.5億円） ※人件費を除く。1ドル:110円換算

## マーシーの概要②

### ■ マーシーの任務

第一の任務は米軍部隊の海外での作戦を、迅速かつ柔軟に支援し、傷病兵に対する医療支援を行うことであり、次いで米国が世界規模で実施する災害救援や人道支援において十分な医療支援を行うことである。

### ■ 母港と運用地域

カリフォルニア州サンディエゴを母港とし、主として太平洋正面を対象としている。

(参考) コンフォートはメリーランド州バルティモアを母港とし、大西洋正面を対象としている。

### ■ 平時管理体制から任務体制への移行

- ・ 活動準備期間は5日間とされている。
- ・ 医療スタッフは、サンディエゴの海軍医療センターをはじめ海軍・海兵隊医療施設から召集される。
- ・ マーシーは、車両ランプや車両甲板を装備していないため、物資の積載は岸壁又はバージ（はしけ）からクレーンで上甲板に上げた後、エレベーターで船内倉庫等に運搬すると考えられる。マーシーの船上には5トクレーンが両舷に各1機あるのみであり、5日間で任務体制に移行するためには岸壁に十分なクレーンと人手が必要と見積もられる。

### ■ 乗員等の訓練

予定任務がない場合は、海軍作戦部長の命令により、年に7日間の洋上訓練が行われる。

### ■ 主な運用実績（災害、人道支援関係）

《2004～2005年 津波災害救援》

5ヶ月間にわたりスマトラ沖地震により発生した津波被害者に対し医療支援を実施。支援した地域はインドネシア、東ティモール、パプアニューギニアで、107,000人以上の治療、466人の手術、11,555対の眼鏡配布、6,900人以上の歯科治療を実施。また、病院や診療所、公的機関が早期に復旧できるようインフラや医療機器の修理を実施。

《2006年以降 パシフィック・パートナーシップ》

平成24年3月「災害多目的船に関する検討会報告書」

# マーシーの概要③



①米国病院船「マーシー」



②手前は海上自衛隊輸送艦「しもきた」



③マーシー搭載のヘリコプター  
(最大輸送人員8人)



④マーシーのヘリ甲板



⑤マーシー搭載の小型作業艇 (64人乗り)

(出典) 防衛省提供



# マーシーの概要④



①一般病室



②隔離病室 (ICU内)



③手術室 (デモ)



④血管造影室 (血管撮影装置DSA)  
Digital Subtraction Angiography



⑤CTスキャン



⑥X線室

(出典) 平成24年3月「災害時多目的船に関する検討会報告書」